

教育的価値	具体の項目	教育課程
【かかわる】	⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間
【題材】非常時を生き抜くたくましさと支援の在り方、ボランティアの心 【対象】全校 51名と教職員13名 【活動の実際】平成25年11月13日（水） 8:40～12:20 復興授業① 被災地（陸前高田と大船渡）の今		
8:40 スクールバス2台に分かれて 学校出発 ☆車中から震災の爪痕、復旧・復興の様子を見る。 ☆高田町 奇跡の1本松駐車場から高田の様子を見る。 ☆車中から見せたいところを職員が説明を加える。 ○竹駒駅付近 ○高田の町 ○野外活動センター跡 ○タピック・松原球場・雇用促進住宅跡 ○大船渡小付近 ○屋台村 ○プラザホテル ○太平洋セメント等  最初に高田に行きました。球場があったところなどがなくなっていました。大船渡では、高田と同じ被害を受けていました。とても残念に思いました。でも、前に来た時よりもがれきがどんどん減ってきていて、家が建てられていたので良かったと思いました。4年後には、僕たちは社会人になるので、そこで助け合っていきたいと思いました。（3年男） 		
復興授業② 赤崎地区公民館長 金野律夫氏の講演 10:00 赤崎町漁村センター着  10:10 金野氏の講演開始 ・震災時気仙沼にいて、無事に赤崎に戻ることができた理由 ・避難所となった公民館での様子 ・震災時を生き抜くにはどうしたらよいか 等  震災時に金野さんがどのような行動をして助かったのか、助かるためにどんなことが必要だったのかを知りことができた。また、赤崎では未来予想図をつくっていた。とても前向きに行動していて勇気をもらった。（2年男） 私が一番印象深く心に残っているには、金野さんが何度もおっしゃった“自分の身は自分で守る”ということです。私はこの言葉を聞いて、当たり前だけどとても大切だと共感しました。まずは、自分の力で生き抜かなければ何にも始まらないことを学びました。（1年女） 		

復興授業③ NPO法人みちのくふるさとネットワーク代表 大関輝一氏の講演

10:45 大関氏の講演開始

- ・NPO法人とは （※依頼時をお願いしておいた）
- ・阪神淡路大震災、中越地震などでもボランティアとして活動
- ・今回の震災後にどんな支援をしてきたか
（映像を交えて説明）
- ・被災地の今後の課題 等



がれきは今は少なくなっているが、きれいになったあとはどうするのがポイントだというのがわかった。「助け合う社会」をつくっていくには、相手が困っていたら助ける、そうすると自分が困ったときは助けてもらえるというのが大切だと分かった。（1年男）

つい最近NPOについて社会で勉強していたので、今回NPO法人の大関さんが来てくださり、かなり勉強になった。被害の規模を素早く把握し、必要なものを必要な分送る。この動きが仲間と連携してできていることがよくわかった。そして、話にあった「テレビが入っていない所の方がひどい」というのはまさにその通りだと思う。支援するときは、そういったことまで考えるのが大事だと思った。（3年男）

《まとめ》

・本校の生徒の実態として、あまり被災地のことはわかっていないだろう。被災地に降り立ち、その中で話を聴くことは、今までより深く何かを感じさせてくれると考え、設定した。ねらいは達成できたと思われる。感じ方は、それぞれ違っていった。感じた中から、個人の復興教育テーマが見つかり、それを来年度の総合的な学習の時間の中で追及していくのもよい。

今まで僕が何もできていないことをとても感じさせられた。できることは少ないが、今僕たちにできることは、やはり学校のいろんな行事を通して地域を元気づけることではないかと思った。活動をさらに盛り上げ、地域を盛り上げていきたい。また、個人でも元気に話したり、挨拶したりして、いろんな人と接していきたい。（2年男）



今回の授業を通して感じたことは、ボランティアの方々に支えられて、私たちは生活できていること、復興に一步步進んでいること、私たちにできることは“独立”という3つのことです。この3つをクリアすると復興の光が見えるのだと思います。これから、年月が流れ、震災の風化がとても怖いです。それを防ぐために私たちができることは、後世に引き継ぐことだと思います。自分たちが親になったとき、おばあちゃんになったとき、この世を去るまで心に深く刻み付け、しっかりと伝えていきたいと思います。それが私たちのできることだと思います。（3年女）

最後に感謝の気持ちを込め全校合唱を披露